

浜松観光ボランティアガイドの会

大河ドラマ「どうする家康」に大きな期待 浜松市観光・シティプロモーション課にインタビュー

8月25日(水)浜松市役所にある産業部観光・シティプロモーション課を訪問して、浜松市の観光行政について中野課長補佐と稲葉主任にインタビューしました。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されている中で、話題はコロナウイルス対策と大河ドラマ関連が主体となりました。

☆浜松市の観光行政の役割と組織を教えてください。

産業部は、産業・経済活性化で雇用創造し、税収を得ることで市民生活等の向上を図る役割を担っています。その中でも当課では、国内外からの誘客促進や、浜松市のPRによる認知度向上等の施策に取り組んでいます。

課内組織はグループ分けしています。①観光政策G：国内観光客の誘客②海外戦略G：インバウンド(海外客)誘客③フィルムコミッション推進室：映画・テレビ・雑誌等のメディアへの支援、誘致活動④シティプロモーションG：浜松市の魅力を国内外に発信しPR

☆本年度の基本方針はどのようなことですか。

コロナ対策(アフターコロナ、ウィズコロナ)を継続的にを行っています。例えばデジタルマーケティングとしてスマホやパソコン等による情報発信の活用と効率化を行っており、効果検証しながら事業を進めています。経済対策としては、コロナ禍の影響を受けている業界への支援を行っています。いわゆる「デュアルモード」における安全モードと経済モードを切り分け、経済モードでは安心して食べに行けるように飲食店の認証制度や補助制度の創設、安全モードでは市独自のデリバリーシステム「Foodelix(フーデリックス)」によりテイクアウト、デリバリー等で経済を回す対策を行っています。また、令和5年NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送と誘客に大きな期待をしており、早期に事業展開ができるように施策を検討しています。

☆将来(ポストコロナ・アフターコロナ)の観光行政の構想を教えてください。

大きく減少した観光客をどう取り戻すかがポイントです。人口減少が見込まれる今後は、余程ドラスティックな動きがなければ国内の観光客は減少するものと考えています。そのため、インバウンドの取組として今できる海外エージェンツ(旅行会社)への情報発信が重要と考えています。今後の見通しは不明瞭ですが、国のGoToトラベル再開等の動向を踏まえながら、市としてもマイクロツーリズムの推進等、政策が重複しないように進めていきたいと考えています。

☆浜松観光ボランティアガイドの会への要望はありますか。

大河ドラマ「どうする家康」は、昨今において唯一の明るい話題であり希望の光です。「来た時におもてなしができるか、満足するか、また来たいと思ってもらえるか」そこに向けて準備段階からガイドの会と連携をとれるように期待しています。「歴史のまち、家康ゆかりの地」を子ども達にも当たり前で認識してもらえるように、一緒に意見交換しながら事業を進めていければと考えています。

広報部 春日康治(西ブロック)

“新人養成講座”受講者募集開始

今年度の当会の新人養成講座の募集が始まりました。大河ドラマ「どうする家康」が発表され、浜松市の観光ブームが起こることが期待されます。このような背景の中、例年より早目に募集活動を行います。講座は来年1月中旬から2月にかけて、会場は可美公園総合センターの研修室で行います。

会員の一人ひとりが知人を誘って、浜松の魅力を伝えるボランティアガイド仲間を増やして、浜松の魅力発信に寄与しましょう。

“はままつ案内人” 新人養成講座

受講者募集

魅力いっぱいの「はままつ案内人」のいかになるかを学んでみませんか！
そして「はままつ案内人」になって、たくさんの人に浜松を伝えたい！

【講座期間】令和4年11月17日(土)午後4時～午後6時(全4回)
【場 所】浜松市役所3階305号会議室(浜松市役所3階)
【対 象】浜松市在住の市民(18歳以上、25歳以下)
【日 時】令和4年11月17日(土) 午後4時～午後6時
1回 20名 20名
【学 費】5,000円(資料代含む) 無料
【講座会場】可美公園総合センター 研修室
【申込方法】可美公園総合センター 受付
【申込期間】令和4年11月17日(土)～11月20日(月)
【申込受付】令和4年11月20日(月)まで

●申込方法 ● 下記の1～3までの方法で申し込みください。
1. インターネット 事務局ホームページ
2. FAX 053-442-1155 (受付時間: 平日9時～17時)
3. e-mail 研修室@city.hamamatsu.lg.jp (受付時間: 平日9時～17時)
4. 電話 053-442-1155 (受付時間: 平日9時～17時)
5. 直接 可美公園総合センター 受付
6. 直接 浜松観光ボランティアガイドの会 11号 浜松市 浜松アミューズ

●申込期限 ● 11月20日(月)午後5時30分まで
●申込者数 ● 20名(定員)まで
●申込費 ● 5,000円(資料代含む) 無料
●申込者 ● 浜松市在住の市民(18歳以上、25歳以下)
●申込者 ● 浜松市在住の市民(18歳以上、25歳以下)
●申込者 ● 浜松市在住の市民(18歳以上、25歳以下)

募集チラシ

西ブロック 新人歓迎会と博物館講座で交流

7月20日(火)西ブロックに配属された2名の新人歓迎会を兼ねてブロック研修会「浜松市博物館の楽しみ方」が14名の参加で行われました。



高床式のスペースで歓迎会

午前中、富塚協働センターでの西ブロック定例会後、浜松市博物館に移動しました。蜷塚遺跡の復元家屋がある蜷塚公園に古い建物があります。

元は蜷塚遺跡の収蔵庫と陳列館として使用していたと後で聞きました。高床式の階下は日陰でオープンになっていて、コロナ禍の3密を避けるには格好の場所です。ブルーシートを敷いてお弁当とお茶で新人歓迎の宴です。マスクを外しての素顔を見ることが出来る貴重な時間です。余興には杉山淳一さんのギターソロで新入会員を歓迎しました。新人の前原福子さんから「すてきな歓迎会をありがとうございました。夏の昼下がり、風に吹かれての淳一さんのギター演奏。至福のひとつきでした」との感想LINEトークがありました。

午後1時から博物館に移動して研修室で学芸員の久野正博さんから「浜松市博物館の楽しみ方」の講座を受けました。1958年に浜松城が完成して、天守内は浜松市郷土博物館としてオープンしました。復興天守の建設時に発掘した瓦・土器等や中央図書館で保管していた収蔵物を展示したとのことです。同じ

頃に蜷塚遺跡は復元家屋を整備して屋外博物館として、登呂遺跡と並んで草分け的な存在でした。収蔵庫と陳列館は高床式で最先端の陳列展示方法であったとのこと。

1979年に浜松城から現在の場所に移動して、浜松市博物館が開館しました。そして2011年にはリニューアルオープンし、目玉としてナウマン象の骨格標本を展示しました。市町村合併した後、浜松市博物館には5つの分館(水窪民俗資料館、春野歴史民俗資料館、姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館、市民ミュージアム浜北、舞阪郷土資料館)があります。それぞれ特色がありますので、余暇を利用して郷土文化の知識を深めるために、足を延ばしてみたいと思います。

講座の後、館内の常設展示場に移動して、久野さんのギャラリートークです。展示は原始の貝塚から始まり銅鐸、銅鏡、江戸時代、現代に続きます。浜松城に複製図が展示してあった「徳川十六将図」の本物は大きくて、鮮明で感動しました。



床面の「浜松領分絵図」の説明

参加者が一番関心をもったのは床面に印刷された「浜松領分絵図」です。元禄元年(1680年頃)に浜松城主青山氏が描かせた浜松藩の現存する最古の絵図で、当時の地形、街道、集落がよくわかります。実物の絵図は非公開とのことですが、一見の価値があります。

浜松市博物館は「家康の散歩道・合戦ルート」に入っていますので、今後、ガイド活動の際には博物館に立ち寄ることを勧めたいと思います。

広報部 春日康治(西ブロック)

会員の交流広場

家康公の父・松平広忠公が眠る松應寺

コロナ前、一昨年6月に岡崎の松應寺(しょうおうじ)を訪問しました。家康公は竹千代8歳の時に父と死別。父、松平広忠公は家臣に暗殺されましたが、当時今川方の支配下にあったため、織田方に父の死亡が知られることを恐れ、菩提寺である大樹寺で公に葬儀することを控え、岡崎城と大樹寺の中間地と思われる現在の松本町(当時の能見ヶ原)あたりで仮葬儀。家康はこの地に「立派に成長するように」と祈念して松を植込んだとのことです。この松が祈願通り成長した姿を見て、家康公は、「我が祈念に應ずる松なり」として、父君菩提のために「松應寺」を創建。本堂の裏手に、御廟所があり、廟所門に三代目と思われる松があります。土壁(つちかべ)はかなり傷んでいましたが、

現在修復中とのことです。そして、なぜか「お寺」に鳥居があります。

本堂前には、家康公の九男尾張藩祖の義直公が寄贈し、戦時中供出されず現存している希少な梵鐘もあり、特に注目されるのは、徳川家(松平家)の三ツ葉葵紋の原形になると思われる三本の剣と三枚の銀杏の葉を組み合わせた剣銀杏紋(けんいちょうもん)が発見されたことで、岡崎市の文化財史跡に指定されています。

御廟所の修復も来年5月に完了予定。家康公の父が眠る御廟所だけでなく、太子堂や梵鐘、木造アーケード街などの歴史的な見どころ沢山の松應寺はこれから注目を集める寺になっていくと思いました。

南ブロック 小栗道雄

私が住んでいる三方ヶ原台地の北東側に位置する内野台地区は、山林の段丘を開発して昭和43年に内野台、平成12年に染地台の住宅団地や工業団地の開発が進み、それらに先立って古墳の発掘調査が行われました。紀元4～5世紀頃から、この地域は天竜川の水を背景に狩猟や農耕等が行われ、強大な権力を持った豪族が住んでいた事がうかがわれます。朝鮮北部の高麗人が移住した時代もあり、多数の積石塚古墳も発見されています。現在、保存されている古墳等について写真と共にご紹介致します。

【主な古墳】

①赤門上(あかもんうえ)古墳 (前方後円墳)

南に隣接する龍泉院(通称赤門寺)の裏山(通称赤門山)が古墳となっていて、県の有形文化財に指定されています。出土品もa)三角縁4神4獣神獣鏡、b)楠製木棺、c)銅鏡、d)剣、直刀等数多く発見されています。(写真参照)



赤門上古墳出土品

②山の神古墳 (円墳)

- a)古墳名の由来は最上部に祠があったため。
- b)赤門の約100m北で、林続きだったが内野台の開発により現在はその間が住宅地(4丁目)となっています。
- c)写真の左(南)側と手前(東)はバス道路で、階段右側は元幼稚園跡地。

③稲荷山古墳 (円墳)

- a)古墳名は稲荷神社(稲荷祠)が傍らにあったため。
- b)直径36.8m×高さ4.2mの規模で、埋葬施設の発掘をしていないため県指定はありません。
- c)山の神古墳より北約100m以内にあり、林の北側は筆塚公園があります。
- d)4世紀末～5世中頃の築造で平成20年の調査によると、2段築造で墳丘上段の斜面は葦石(ふきいし)が貼付けられ、周辺溝より土師器(はじき)が発見されました。
- e)千人塚古墳(直径49m、東区有玉西町)、入野古墳(直径44m、西区入野町)に次いで市内3番目の規模です。



山の神古墳(直径16m×高さ4.9m)

④二本ヶ谷積石塚古墳群

- a)東谷支群は22基、西谷支群は6基が主に発見されました。
- b)平成17年発掘調査後、赤門川調整池(東谷)周辺に6基のみ復元保存(最上部を中石で覆う)されています。
- c)5世紀後半～6世紀全般の築造とみられ、石積方式は一边3～9m、高さ0.5～1mで県指定史跡です。
- d)移住高麗人の古墳で、関東甲信地方にもみられます。
- e)浜松市文化財課の鈴木一有さんによると、遠く中国・ロシアにも積石完成型が多くみられるとのこと。



赤門川調整池周辺の積石塚古墳(復元保存)

【その他の史跡、神社等】

①近藤陣屋跡：大谷(おおや)近藤家7代用譽(もちたか)が三ヶ日より移築し、天保10年～明治2年の48年間続きました。今は陣屋門と屋根瓦付き塀が池谷宅に残っていますが、陣屋跡は看板のみで竹藪が生い茂っています。

②八王子千人隊開拓団(約250名余)の入植関連史跡

- a)豊川稲荷神社：染地台調整池南東側、千人隊が勧請(かんじょう)しました。
- b)滝山・正寿院：千人隊の文書や御墓が保存されています。

③悪人地藏像：三ヶ日の悪人が処刑前に改心して難病を治すという地藏尊となりました。

④木の滝不動尊と岩獄霊神(4個)の石碑：悪人地藏の隣地にあります。

⑤内野神明宮：現在、内野・内野台・染地台の氏子総代及び松島宮司により管理されています。

⑥福応寺：内野台1丁目東側小高い所にあり、北向観音堂や永代供養塔等があります。

会員の交流広場

法橋の松と橋羽をめぐる

7月25日(日)へりさんぽ26「法橋(ほうきょう)の松と橋羽(はしわ)をめぐる」講座が浜松市文化財課主催で開催されました。今回の応募方法は事前に電話で申込みする方法がとられました。定員は20人、もはや、これは電話戦争の予感。私は用事があり遅く電話を何回か掛けまくった結果、定員スレスレで参加することができました。

当日10時までに天竜川駅北口に集合し、スタート前に文化財課の鈴木一有さんからコースの説明があり、その後駅前をスタートしました。スタート前の説明で天竜川駅の下が遺跡であると言われビックリ！駅北側には松東(まつひがし)遺跡があり弥生時代の集落跡が発見されているとのこと。また、松東遺跡からは銅鐸の吊り下げ部分の紐(ちゅう)破片、西側の木船(きぶね)遺跡からは銅鐸が出土したとのこと。

更には、現在の芳川が宮井戸川と言われていた頃は、天竜川駅まで流れ込んでいたとの事がかつての川の流れはなくなってしまっています。そして、天竜川駅北側は奈良時代・平安時代には、長田(おさだ)郡の役所があった所で、しかも当時はここが古代の中心地だったとか！

次に向かったのは木船神社・木船廃寺。木船廃寺跡では飛鳥時代まで遡る建物があって、そこからは瓦等が大量に出土し現在は廃寺の基礎石のみが移動されて展示されています。次は旧東海道を

残る松並木の一部が残る橋羽のバス停の所を見ながら、道路の片隅にある妙恩寺の石柱を見て南進し妙恩寺に到着。このお寺は元々金原法橋の邸宅でその後、日蓮宗妙恩寺になったとの事。寺には金原明善・高柳健次郎のお墓があり、また徳川家康の伝説が残る寺として有名です。



法橋の松



妙恩寺門前

次は法橋の松に向います。この松は元々広大な妙恩寺の境内であった所で金原法橋が植えた樹齢700年と伝わります。現在の松は、かつての風貌は無く松の幹が折れるのを防ぐための金属製の支柱と雨水の侵入を防ぐマットが巻かれ痛々しい姿でした。そして、かつて法橋の松周辺にはヤマハ天竜工

場がありましたが、その後工場は無くなり現在は住宅地として風景が変貌しています。

その後、天竜川駅に戻り電車で浜松駅に帰りました。それにしても暑い一日でした。

北ブロック 松本初義

～訂正とおわび～

はままつ案内人会報8月号(229号)に誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

2ページ見出し 誤：事業部現地研修 ⇒ 正：研修部現地研修

2ページ左下写真説明 誤：伊勢神社 ⇒ 正：伊勢神宮

2ページ右下から4, 5行目 誤：八橋神社 ⇒ 正：八柱神社

★お知らせ★

当会では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月8日(日)より浜松城、浜松駅構内の浜松市観光インフォメーションセンター及び浜松まつり会館で、20日(金)より犀ヶ崖資料館でのガイド活動を中止しています。

静岡県が8月20日(金)から9月12日(日)まで「緊急事態宣言」を発令しました。従って当分の間、当会のガイド活動を中止します。何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

はままつ案内人会報 230号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



出世大名 家康くん

出世法師 直虎ちゃん